夕刊
十月三十一日發行

呉れ好き貰ひ好き

林熊生

三

「ばかねね、そんなときはきちんとおあしあげてるわよ」

と云つたものゝ、なにか腹の中でにやにやしてゐるそれがだんだん顔にのぼつて來て、「だけどあの人とてもおかしいのね。一圓のもの買つて來て、これ五十錢だつたなんて平氣で嘘をつくのよ。そんなときはやつぱり顔色で判るのよ。責めたてゝやつてほんとの値段を白状させてそれだけのおあしをあげると、そいつやこれで蕎麥をおごらうかなんて、まるでまうけ物したやうたやうなことを云つてんの。そんなところ少し癪なくらゐよ」

ざつとこんな具合だ。しかし妻の方でも何とか氣のすむやうなことはしてゐるのだらう。まあさう思ふからあまり干渉もせずにゐるんだが。

或る時宮田はどこかの家にゐる犬の話をしてゐる「コッカーつてね、スパニールの一種だけど、小型でそれに毛がつやつやしてゐて、とても可愛いんだ。元來が獵犬だから水の中なぞ平氣ではいる。貴婦人の携帶用つてものかどうかは知らないが、いゝもんですよ」

「あら、ほしいわね。それ番犬になる?」

「なるとも。この秋こどもが出來たら貰つてきあげげようか」

「まあうれしい。でも飼ふのむつかしいんでせう」

「なに誰れにだつて飼へるさ」

「きつとね」

妻は僕の方をむいて「二人きりだし、用心のためどうしても番犬がいるのよ」と云ふわけをしてゐる。僕はこの様子を見てつくづくと思つたのは、これは宮田が呉れ好きなばかりではない。きつと僕の妻も珍らしい貰ひ好きで、そして貰ひ上手なのだらう。さう考へるとよく解るのは、宮田はこの頃あまりほかの家へ顔を見せなくなつたと云ふ。宮田好きの親戚の子供などは、さう云つて不平を云ふさうだ。

11月1日

一

△錢貨富壽神寶を鑄る(弘仁九)△社會局設置(大正一二)

○

貴き人々の上にのみ、天來の火は燃え上る　ウイリアム・ボース

連續講談 異說赤穗浪士

別題『異説赤穗誠忠士』『赤穗誠忠錄』[46]

桃川若燕

畵 城木齋

紫雲寺潟の埋立

『これは迷惑千萬、手前、元より斯樣な惰弱者、武術を以て世に立たうとは存せん、その拙者へ相手をしろと仰しやるは無理と申すもの、凡そ武士ともいふ以上強きを怖れ弱きを助けなければならん、犬猫は誰も打つ、猫を打つ拳を以て猛虎に向はんければならん、然るに强きを避けて弱きに向ふは』

『ナニツ今一言申して見よ』

『イヤ何んと言はれても手前は相手は仕らん』

本を片手にズイと奥へ入らうとした。焦々した金三郎は

『待て――』

云ひ乍ら木劍を取つて釆女へ飛び蒐らうとするので安兵衛兄の大事と躍り掛り金三郎の襟へ手を掛けて大喝一聲ヤツと云ふと、筋斗打たしてドーンと投げ付けた。

金三郎はむくむく起き上つたが、

『安兵衛覺えてゐろ、此の仕返しは必ず致すから』

と云ひ捨てゝ行つてしまふ。後見送つた一同が

『どうだい、梶田の奴、怒つて行つてしまつたぞ』

『ナニ、奴は彼の位の目にはしてやらなければいかん、何時も腕自慢で弱者苛めをするから、いゝ見せしめだ』

と云ひ乍ら一同も立歸つ

安兵衛は面小手を片付けてゐると、そこへ

『お歸り――』

と供の聲に父の歸りと安兵衛は玄關に立ち出で

『お父上お歸りなさいまし』

と云ひながら父の顏を見ると、何時にない中山主膳忌な顏をしてゐる

『安兵衛』

『ハイ』

『釆女はどうした』

『ハイ、只今御本を讀んで居ります。これへ呼んで參りませうか』

『イヤ呼ぶには及ばん、追つ付け參るであらうから捨て置け――、どうも彼れは多病、それに引きかへて其方は些と荒っすぎる、物は思ふ様に參らぬものだ、釆女と其方とつき合せると丁度いふのだが一人は硬過ぎる、一人は柔か過ぎる、しかし安兵衛其方も十六歳、最早子供ではないぞ、元服致さねばならぬ』

『ハイ――』

何時にない妙なことを父が云ふので安兵衛は神妙にして其れへ控へてゐると

『只今梶田金三郎が額から血を流して拙者と行き違ひに出て行つたが、アレは如何したのだ』

『ハイ只今大勢宅へ參りまして劍術の稽古を致して居りますと、表から梶田が入つて參りまして强て私に立ち合ひを望みます、私も疲れて居りますから斷りましたところが、何と申しても肯き入れません、據ろなく立ち合ひましたところお兄樣が、要らざる立ち合ひは止せと聲を掛けました、途端に私が躍り込んで面を打ちました』

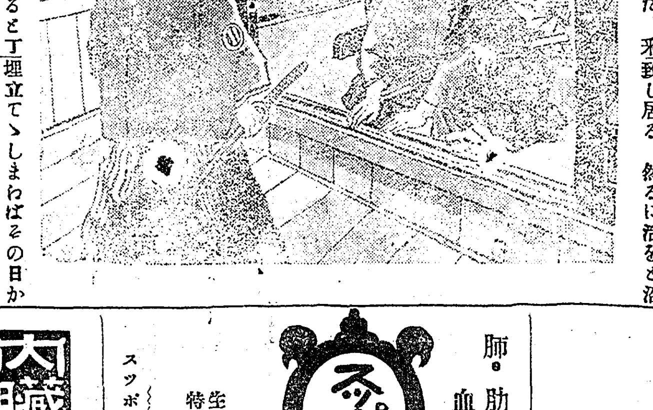
『ウーム……』

『そのとき金三郎が躱はし損ねて眉間に傷がつきましたので、大層立腹致しまして兄弟馴れ合つて卑怯だと申しましたので……』

『ウムさうか、どうも困つたことに相成つた、安兵衛惡い事をして呉れたな』

『惡い事と申しますと』

『他でもない、お前に一言申して置くが此度仰せつけられた紫雲寺潟の埋立の檢分だ、實は紫雲寺潟の周圍に住する漁師が彼の沼から生ずる魚を取つて今日の生致し居る、然るに活をと沼埋立てゝしまはねばその日から業が出來ぬ糊口にも差支へると云ふので住民が騷ぎ立てた、では何者が埋立を上申したかと云ふに梶田彌三右衞門、松山平太夫の兩人が埋立ての儀を申し出たものである――』



雜詠集

上田冷人

○みちのくの夕潮ひきてかぐろうつ潟香ののこる白き突崎

○みちのくの潮騷とどろうつ夜の汽車より見巾る白き突崎

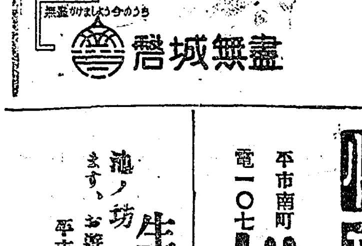
○みちのくの海にかぐろく昏れひきてたゞ潮騷のとどろうふ

○ひたぶるに國擧げます[illegible]たれは耐へ耐へ生きむ

○ぬば玉の夜をたもとほり密獵船人聲のなか草葉そよげる

○みちのくの潮山晴れて青そゝる眼さきにあかばなつかしきかな

廣告



七・七禁令ニ協力シマセウ
Refinetex
リフアインテツクス
◇純毛各種取揃◇
秋　冬
セビロ三ツ揃
○停¥60.00ヨリ
○停¥130.00マデ
セビロ三ツ揃
○停¥60.00ヨリ
○停¥130.00マデ
オーバー
○停¥55.00ヨリ
○停¥130.00マデ
オーバー
○停¥55.00ヨリ
○停¥130.00マデ
國民服(中衣共)仕上り五〇圓ヨリ百拾圓マデ
大崎洋服店
平銀座　電96

新秋の味覺
とんかつ専門の店
興亞の春を前にどうぞ一層の御ひいきで御引立をお願ひ致します
▼出前は迅速に御つとめ致します
平市仲田町(電話四六五)
かの家

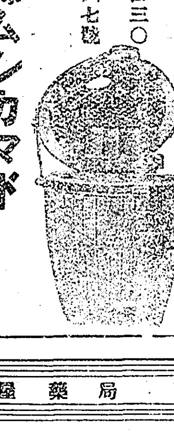
肺・肋膜・心臓・胃腸の弱い方に
血となり肉ともなる……
生スッポンの生血・生膽を御勧め致します
本場
生スッポン特約養殖
養殖場
平市六丁目通り
さかいや商店
平市正月町一番地
スッポン黑燒、むし燒粉末もあります

内臓外科　整形外科　胃腸　性病
内臓外科　脳脊髄病科　外科
整形外科　レントゲン科　理學療法科
内胃腸病科　肛門病科
花柳病科　皮膚病科　泌尿器病科
醫學博士　松村亨
醫學得業士　松村鐵郎
平市南町　電一〇七
松村醫院

生花教授
池ノ坊
生花を懇切丁寧に御教授いたします。お遊びがてら御出で下さい。
平市四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

鑑定項目
名前のみで一代の運命
何んてしわかる……
体力　肉体・疾病　(健康、不健康、相貌)(病根病勢、病名)に關する一切
活動　職業・天運　(適業、不適業)(天運、成功、不成功、炎厄)に關する一切
血縁　家族運・男女縁　(父母の縁、夫婦の縁、子供の縁)有無(氣質、相性、相尅、婚期方位に關する一切
銀行、會社名、商號、家號、會名、雅號、藝名、養子、養女、姓名、生兒名
鵜沼孝昌
平市紺屋町　三六

實用新案登錄第一八七四三〇號
意匠登錄第六六一六七號
石山式
石綿ムシカマド
こんな經濟的な"かまど"は他にありません
安價な燃料で濟み、保溫力が强く堅牢で火の元絶對安全!、御使用に御便利な!石綿製のムシカマド、近代生活のお台所に是非、おすゝめ致したい新製品で御座います。



平市五丁目
金物問屋
和洋銅物
釜屋商店

醫學士　吉田久雄
吉田眼科醫院
平市紺屋町　電話六八番

一般貨物運搬
時代に即應せる新陣容を以て迅速低廉に御取扱ひ致します
福好工業合資會社
代表者　强口唯七郎
自動車部
電話二八二番

西村屋藥局
電話三番です
藥品百貨と
寫眞機材料の店です
平市本町二丁目
西村屋藥局

手付金で我がものになる賣宅地
平第三小學校前約一萬五千坪内五千坪
金より物の時代
安全の土地
一、常陽銀行、七十七銀行、平庶民金庫この間に購入資金融通の途がついて居ります。
一、直に名義書き替へが出來ます。
大小各口の御相談に應ず
申込所
驛前　阿部石炭部　電話三七番
四丁目　和泉屋旅館　電話二一七番
田町　蓮沼龍輔　電話七八七番
五丁目　馬目武之助　電話五五八番

興亞の意氣に奮ひ
感激一入の明奉公日
教勅渙發五十周年直後の市民

また廻り來た明一日の興亞奉公日は萬古不磨の聖訓、教育勅語渙發五十周年の感激新なる折柄、各々の自覺に一入深刻を加ふべきは云ふ迄も無い。現地も漸く冱寒の季に入るに際し、一層戰場勇士の勞苦を偲ぶは勿論、その感激を實際生活に移して自肅自省夫々の立場に於て實踐の勞を積まねばならぬ。而してまた今日の恒久的實踐の源泉たらしめねばならぬと云ふ反省が犇々と湧き起らねばならぬ秋であり此際明日から實施される大衆嗜好物の値下げなどはお互の念頭になく、市內各享樂面の自戒休業をはじめ其他興行もの〻娛樂面に於ても營業時間の短縮等、これを最少限度に止め一億一心の時局的感激裡に終始するのは必然である

金賣却最後の運動
町村に買上出張所開設

縣は金賣却運動の最後として來る四日から十二月まで金賣却强調週間を實施し縣民の協力を求めることとなつたが最初の四日間は縣下五十の銀行員百五十名を動員して三ケ町村に一ケ所宛買上出張所を開設し行員二名を配置して買上を行ふことになつた一方橋本知事は縣下三萬の金保有者に對し三十日金賣却懇談の最後的依頼狀を發送したが大体これによつて縣下の金所藏者は全部賣却を見るべく豫想してゐるがなほ保有者ある場合はいよ〳〵强制買上げ斷行を行ふ模樣である

磐城丸出航
かじき漁場探査

縣指導船磐城丸は今三十一日出航、岩手縣鮭崎沖のかじき漁場打診に向つたが續いて第二東日本丸（小名濱東日本水產）盛厚丸（江名町吉田傳兵衛氏所有）が本縣代表船としてかじき漁に活躍する

賭博二件檢擧さる

市內南町材木商市毛吉太郎(五二)豬渡村下市萱材木商三瓶久一(三九)內郷村綴字堀坂土工田中大吉(四四)赤井村日曾探炭夫柄田一郎(三五)の四名は二十九日夜市內二丁目某飲食店階上で、また內郷村宮澤採炭夫大喬九郎(三三)同坊陽二郎(三九)の兩名は二十八日臺大商方で何れも花賭博開張、平署に檢擧された

豫告

本紙を磐城毎日新聞と改題、來る十三日より發行、其間從前通り磐城新聞を發行

特殊教育機關
訓盲院の赤皮補塡
地方有志感激の醵金

地方唯一の特殊教育機關として明治四十年創立以來御下賜金及び特志寄附により終始盲教育に貢獻を續けて來た財團法人磐城訓盲院は前記丈けでは維持經營上常に年額三百圓內外の不足を生じ特殊教育機關として充分の機能を發揮出來ぬ憾みあるに鑑み地方左記有志は今回各頭書の金額を醵出し當面の校務遂行を助成することゝなつた

金百圓三井榮一、金百圓小田吉次、金二十圓宛橋本善兵衛、諸橋久太郎、阿部政右衛、高橋龜松、野崎滋藏

岡村大字北好間字三反田一一野田章氏五男光良君六男圭佑君

拈華微笑

葛裘二十年の歷史と永別する本紙の廢刊、また無量の感慨無きを得ない

□

併し本紙の時局意識は本紙をして太古の如く靜寂な境地に置いた

□

廢刊を見る事歸するが如き所以

□

社同人微力尙ほ從容として世紀の大道を驀進し得るを感謝する

□

積年の御俠援に滿腔の謝意を表し時局柄皆樣の自重加餐を祈る

野兎皮供出に拍車
濱通り各署の係り招集
來月三日平署で協議

縣では目下狩獵シーズンに際し軍用野兎毛皮の供出に更に一段の拍車を加へるべく濱通り各署の狩獵係を來月三日平署に集め獵用配品事務の打合せを行ふ

平商生奉仕

平商業學校では鍬その他の道具一式を備へて勤勞奉仕隊を結成、二十九日武川教諭ら引率の下に五年生奉仕隊五十名が出動、第一回奉仕として市內新町の出征勇士宅猪狩彌作さん方の三反步の稻刈を行つた

健康赤ちゃん表彰
平市から卅二名內申

石城醫師會では乳幼兒哺育指導に資するためさきに昨年四月以降今年六月までの乳幼兒一齊檢診を行つたがこのうち「發育甲の上」のものを縣で表彰することゝなり平市內の分は淸水石城醫師會長が中心となつて銓衡の結果三十二名を選衡平署を經て縣當局に內申した

岡田社中奉納生花陳列

池坊柳生派華道研究會岡田華悅社中の奉祝紀元二千六百年奉納生花陳列會は十一月十、十一の二日間午前九時より午後八時迄市公會堂日本間に於て開催一般多數の觀賞を歡迎すると

賀增田君列醫博

謹呈　小野瀨平

扁倉仁術夙超群
幾博回生起死勳
多歲研鑽探神祕
悠揚笑嘯絕塵雲

平市慶弔錄

△出生　本籍五丁目一六好

新　十一月一日　金曜
舊　十月二日
戊申　大安　閉　鬼宿

▲一白　目上には吉くとも左右の折合ひは惡しき日▲二黑　先を見からさずに足元に注意して勵むべし▲三碧　働きた目上に認めらるゝ日奮勵一番怠るな▲四綠　動けば動くほど深みにゆれ陷る日注意々々▲五黃　運氣吉く成りし樣で實務の十分ならざる日▲六白　閑き惑ひより窓外の口舌をひき起すことあり▲七赤　こ息の手段を取らず一誠を以てすべき日▲八白　山氣は破れを招くもと本業大切に守るべし▲九紫　多少の面どうはありとも概して進みて吉き日

一日　【小名濱測候所觀測】
滿潮　前五、二〇　後四、二五
干潮　前一〇、五五　後一一、一五

共同聲明

創刊以來長年月に亘つて甚大な御援助を辱うした五紙は本號を最終として茲に**廢刊することゝなつた。**

願ふに支那事變勃發以來滿三年四ケ月、高度國防國家を建設し大東亞共榮圈を確立して肇國悠久二千六百年の光輝ある歷史を恒刧不磨に光被せんとする所謂新体制の基底が、萬民翼賛の國民組織確立に存する限り吾々國民は此際一億一心以て世紀の命する方向に新なる發足を敢行せねばならない。

吾人の時局即應とは何ぞや**國論統一の新時代に善處し一面國策的の分野に對してのみ許されてゐる物資の消費を徹底的に節約するに在る**

今や吾人は之らの動向に鑑み勇敢に去就を決すべき秋に到達した、時局はまさに自由主義的放恣なる事業の存在を否定して居る

眇たる地方の小紙乍ら長い間御愛讀を垂れられ其他萬般の御援助を仰いだ愛讀者各位に對し淚を以て積年の御眷顧を深謝し併せて時局の命ずる處に向つて各社自發的に廢刊するに至つた所以の御諒解を懇願する次第である。

昭和十五年十月三十一日

（いろは順）

磐城時報社　社長　佐藤作平

磐城新聞社　社長　蓮沼龍輔

常磐毎日新聞社　社長　川崎文治

新いわき社　社長　半谷政喜

常磐新聞　社長　伊藤隆次

奉祝紀元二千六百年
奉納生花陳列
△期日　十一月十日、十一日
午前九時より午後八時まで
△會場　平市公會堂日本間
池坊柳生派華道研究會
岡田華悅社中

病室・手術室完備
產科婦人科　醫學博士　五十嵐雄二
（物理療法科併置）〔入院隨時〕
平市新川町（電話三六九番）

吸入用酸素　純度99%
度量衡　計量器
モノサシ　マス　ハカリ
体温器　寒暖計
秤ノ取締器械・修繕致シマス
關內藥局　電話四〇番

新刊書籍　月刊雜誌
特價圖書販賣店
三英堂　村山書店
平市中央通（驛前通）

產婦人科
井坂醫院
平市田町　電五五九
見習看護婦入用

簡易金融
小口も歡迎いたします
茨城相互株式會社平出張所（金融業）
綠川喜三郎
假事務所　平市才槌小路四二